

テーマ「誰が隣人になったと思うか？」

～ともに生きる関わりを求めて～

1. 趣旨

21世紀キリスト教社会福祉実践会議は、①超教派の立場から、さまざまなキリスト教主義社会福祉団体の連携をはかり、協働して、きたるべき将来のキリスト教社会福祉の展望を切り開いていくこと。②各キリスト教主義社会福祉施設および団体に働くキリスト者の育成と支援をはかること等を目的に、1998年に創設されました。現在に至るまで、各教派の福祉現場に携わる人々が話し合い、2年に1回の大会を開催して、互いの信頼と協働の実績を積み上げてきました。

コロナ等の影響で中断しておりましたが、本年は、「誰が隣人になったと思うか?～ともに生きる関わりを求めて」をテーマに、第12回大会を企画いたしました。近年、家族、地域関係の希薄化が進み、ひきこもり状態にある方々は100万人を超え、かつ子どもの貧困を含む生活困窮の状態が広がっています。さらに児童虐待、孤独死等の増加を食い止められません。なのに必要とする支援者が不足し、解決困難な問題に直面して支援者が疲れ切っているという状況も見られます。

このような現実直面して、今回は、あらためて互いが置かれている現場をふりかえり、支援の原点に立ち戻り、思いを共有し、可能な取り組みをご一緒に模索していきたいと思っています。どうぞ、ご参加ください。



2. 日時:2025年 2月22日(土) 9:30~16:00

3. 会場:湘南とつかYMCA ※QRコードから会場案内がご覧になれます

横浜市戸塚区上倉田町769-24戸塚駅徒歩5分

4. 対象:キリスト教主義福祉施設等の従事者、地域福祉活動団体の活動者、教会関係者、学生、市民

5. プログラム

9:00 受付開始

9:30 開会礼拝 上田 憲明氏(日本聖公会東京教区司祭)

ご挨拶 市川 一宏氏(実践会議代表 ルーテル学院大学名誉教授)

10:00 基調講演1 「カリタス南相馬の働き」

幸田 和生氏(カトリック東京教区名誉補佐司教、一般社団法人カリタス南相馬代表理事、カトリック原町教会司祭)

2011年3月、地震・津波・原発事故というトリプル災害に見舞われた福島県浜通りにあって、ボランティア活動の拠点として活動を開始したカリタス南相馬。13年経った今も小さなキリスト教共同体としてこの地にあり、この地の人々とともに歩もうとしています。奪われてしまって戻ってこないもの、今も進行中で終わりの見えない原発事故、長い時間を経過してから表れるトラウマの影響……、ここにこそ復活の主が共にいてくださると信じてわたしたちは歩んでいます。

11:00 基調講演2 「他者の苦しみへの責任と連帯 ~べてるの家の40年の歩みから~」

向谷地 生良氏(社会福祉法人浦河べてるの家理事長、北海道医療大学名誉教授)

メンタルヘルス領域のソーシャルワーカーとして現場に立ち46年が経ちます。その私を導き、育てたのは、鉄格子で覆われた精神科病棟で出会った「精神障がい者」と呼ばれる酒に溺れ家族や職場を失った人、幻覚や妄想の世界に振り回され、独りの世界に閉じこもる人たちでした。

13:00 シンポジウム 司会 石川 一由紀氏(救世軍本営 社会福祉部長)

① 「重度の障がいをもつ人と歩む」 稲松 義人氏(社会福祉法人小羊学園理事長)

② 「独居の高齢者の生活を支えるために」 下条 裕章氏(聖公会神田キリスト教会司祭、きぼうのいえ施設長・理事長)

③ 「一人ひとりの子どもの成長と可能性を支えて」 長縄 良樹氏(日本児童育成園統括施設長)

14:40 ふりかえり

15:30 閉会礼拝 小勝 奈保子氏(日本福音ルーテル聖パウロ教会牧師)

15:50 閉会の挨拶 大橋 愛子氏(さかえ保育園園長)

6. 参加費等

一般:1名 2,000円、学生:1名 1,000円当日会場で納入してください

※ZOOM参加の方は、受付後パスコードと参加費振込先をお知らせしますので期日までにお振り込みください

昼食:昼食は、ご持参、または各自会場近くの飲食店でお取り下さい

7. 申し込み方法・問い合わせ先

裏面の申込用紙により2025年2月14日(金)までにFAX、E-mailで下記までお申し込みください。

受付後、確認のため返信を致します。返信がない場合はお手数ですが事務局までお問い合わせください。

(社福)基督教児童福祉会 バット博士記念ホーム内 日本キリスト教社会事業同盟事務局

東京都町田市下小山田町2745-1(担当 宮本 和武)

FAX:042-797-5531. E-mail:jcswl@koinonia.jp